

編 集 後 記

生理学会の活性化に向けて多くの試みがなされています。関連研究分野からの会員を増やして生理学そのものの活性化をはかる、生理学会大会を他学会と合同で開催する、生理学会大会を積極的に英語化する、生理学教育にもっと目を向ける、若手の会の活動を支援する等です。Japanese Journal of Physiology の誌名を Journal of Physiological Sciences に変更することになったのも、その一つです。しかしながら、会員の多くが生理学会の活動や運営に無関心であるなら、せっかくのこれらの試みも実をむすぶことは難しいと思います。現状では、残念ながら総会・評議員会の出席者はまばらで、常任幹事や科研費の審査委員の選挙でも投票率は低く、多くの会員の関心は高いとはいえないように思えます。

関心をもってもらうためには、できるだけ多くの人に学会の運営に参加してもらうことが重要ではないでしょうか。私自身、常任幹事会やいろいろな委員会に出席するようになるまで、学会がどのように運営されているのかわかりませんでしたし、関心もありませんでした。現状は、いろいろな委員会に参加している顔ぶれは似かよっており、しかも圧倒的に「教授」が多いのです。常任

幹事会や各種委員会にできるだけ多くの中堅・若手が参加できるような状況が必要なのではないでしょうか。

生理学会大会についてはどうでしょうか。他の学会の方から「堅苦しい」というような感想を聞いたことがあります。ネクタイ着用の「先生」が多くて、カルチャーショックを受けたのだそうです。最近の生理学会では、学会場ではネクタイでない方も多くなりましたが、常任幹事会などになると（男性は）まだまだジャケット+ネクタイがほとんど（すべて？）と見受けられます。もちろんネクタイが好きな方はすれば良いのですが、正装でなければならぬような雰囲気があるとすれば問題だと思います。また、「先生」どうして「先生」と呼び合うのも、よく考えてみれば気味の悪い習慣で、学会の自由であるべき雰囲気とは相容れないのではないのでしょうか。お互い呼ぶのに「さん」で特に不都合があるとは思えません。実際に「さん」で通している学会もあります。こんな細かいこと、と思われるかもしれませんが、細かいことの積み重ねが大きな変化をもたらすこともあります。簡単なことですから、ちょっと試してみたいかがでしょう。（小西真人）

編 集 委 員

岡田 泰伸	一般生理 [編集・広報幹事] [HP, VISION, LECTURES]	佐々木和彦	神経生理 (東北) [表紙]
赤須 崇	神経生理 (九州) [校正・編集後記]	定藤 規弘	心理生理 [HP]
入来 篤史	感覚, 運動, 高次中枢 [H-PSJ]	渋谷まさと	呼吸・循環 [JPME]
河西 春郎	神経・分泌生理 [校正・編集後記]	菅屋 潤壺	栄養・代謝・体温 (中部) [校正・編集後記]
川上 順子	感覚 [校正・編集後記]	関野 祐子	神経化学 [校正・編集後記]
北澤 茂	運動, 認知 [校正・編集後記]	高井 章	平滑筋, 自律神経 (北海道) [表紙]
久保 義弘	細胞分子生理 [A-Tea]	辻岡 克彦	循環 (中・四国) [校正・編集後記]
窪田 隆裕	腎・体液 (近畿) [Profile]	美津島 大	内分泌 (関東) [HP]
小泉 周	感覚 [HP]	村上 政隆	膜輸送 [HP]
小西 真人	筋 (東京) [校正・編集後記]	吉岡 利忠	体力 [校正・編集後記]
小山 なつ	感覚, 神経生理 [HP]		

日本生理学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-10 布施ビル
TEL：03-3815-1624 FAX：03-3815-1603（勤務時間10：30～18：30）
E-mail：psj@qa2.so-net.ne.jp
URL：http://www.soc.nii.ac.jp/psj/